

安心電話システム導入

来年2月から
松戸・幸谷町会 高齢者宅対象に

11.11.9
千葉日報

松戸市の幸谷町会(伊藤久美子会長)は8日、来年2月から、電話応答で高齢者の安否を確認する「あんしん電話システム」を実施すると発表した。提携する医療機関が、電話自動音声による「声掛け」を行い、同町会内の高齢者が自宅にある電話機のプッシュボタンを押して、安否や健康状態を知らせるシステムだ。

同町会の加入者のうち高齢者は約480人。人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)でみると約20%。これは同市内全域の平均値とほぼ同じ。だが、今後は高齢化率の大幅な上昇が予想され、高齢者対策が急務となっている。

導入するシステムは、幸谷地区から近い新松戸

診療所(向市新松戸)に、パソコンと連結させた音声自動発信電話を設置。あらかじめ登録した高齢者宅に毎週1回、安否確認の自動音声電話をかける。応答する高齢者側は、自宅の電話機を使い、問題がなければ「1」、医師に質問したい場合は「2」、体調不良の場合には「3」のボタンを押して知らせる。

「2」「3」の場合は、同診療所が直接電話して対応する。また、電話応答がない場合は同診療所が町会に連絡し、町会のボランティアスタッフが戸別訪問する。

同町会では年内にかけて高齢者実態調査を行いながら、同システムへの加入を呼び掛ける。加入と利用は無料。

安否システム 業者に頼らず

松戸市の幸谷、新松戸東町会が8日、高齢者の孤独死などを防ぐため、地元診療所と連携した独自の安否確認システムを来年2月頃導入すると発表した。希望者は無料で利用できる。県高齢者福祉課は「町会が民間業者を通さずに独自に『見守り活動』を行う先進的なケース」としている。システムは、地元の新松

高齢者見守り 2町会独自に

戸診療所に設置する独自のパソコンから、登録した高齢者宅に自動発信で音声案内電話をかける仕組み。電話を受けた高齢者は、プッシュボタンで「1(異常なし)」、「2(医師に質問あり)」、「3(体調不良)」と健康状態を伝える。高齢者の返答は診療所のパソコンに表示され、体調不良や応答なしの場合、医師が医療機関の受診を助言したり、町会ボランティアに訪問を促して様子を確認したりする。

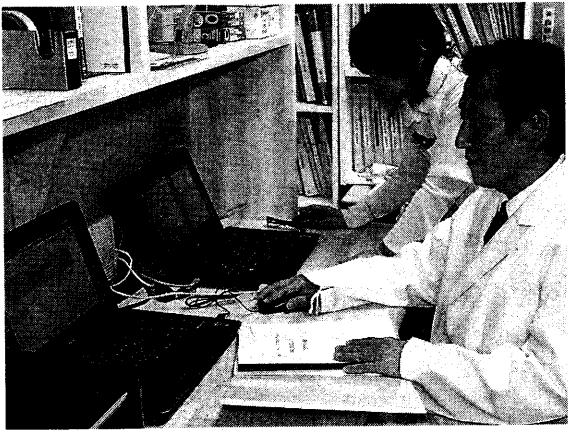
町会の65歳以上が対象で、軌道に乗れば、障害者の登録も検討する。また、自動発信回数は当面は週1回だが、将来は週3回に増やす考え。発案者で

お年寄り見守りコール

松戸 診療所と町会連携

週に1回発信

松戸市の幸谷、新松戸東町会と地元の診療所が連携して、地域に住むお年寄りの見守り「あんしん電話」の運用が始まった。利用を希望する65歳以上の高齢者の自宅に音声案内電話を自動発信して健康状態を尋ね、異常があれば町会のボランティア相談員が駆けつける仕組み。



あんしん電話加入者からの応答状況を確認する三浦聡雄所長(松戸市の新松戸診療所)

町会会は新松戸駅周辺にあり、幸谷町会(伊藤久美子会長)は約千世帯、新松戸東町会(渡辺仁会長)は約240世帯を抱える。

町会前には新松戸診療所(三浦聡雄所長)に2台のパソコンを設置。日頃から診療などを通じて親しみのある三浦所長の声で、健康状態を尋ねる自動音声電話を週1回、希望する曜日と時刻に発信する。

電話を受けた高齢者はプッシュボタンで「1」(はいいえ)、「2」(はい)、「3」(すれかを押して健康状態を伝える)。

パソコン画面では「1」なら緑、「2」なら黄、「3」なら赤が表示され、黄と赤の高齢者には診療所から電話をかけて状態を確認。電話がつかない場合は、自動発信で再度電話。2回続けて応答がない場合は診療所から各町会に連絡し、町会が相談員を訪

問させて安否を確認する。三浦所長は「孤独死などが深刻な状況にある中、町会の人たちの熱意でできたあんしん電話はほんのわずかな一歩だが、貴重な一歩」と話し、将来は電話の発信を週2回に増やすなど、町会と協力して取り組みを広げていきたいという。

登録や利用は無料で、本格運用が始まった2日現在、両町会合わせて60代後半から90代までの44人が登録し、相談員23人が活動している。パソコンの購入など費用は国の補助金でまかされた。県高齢者福祉課も「県内ではあまり例のない、先進的な取り組み」と注目する。(小淵隆博)